

# 「深谷台小学校・俣野小学校」通学区域と 学校規模の適正化検討委員会ニュース

発行日：平成 25 年 1 月 21 日

発行：検討委員会事務局

第 3 回検討委員会 開催

☆平成 24 年 12 月 20 日（木）午後 6 時半から  
大正中学校 ミーティングルーム



## 1 はじめに

◇第 3 回検討委員会では、まず、前回の第 2 回検討委員会で委員から出された意見・質問に対して、事務局から説明を行いました。その上で、深谷台小学校と俣野小学校の今後の方向性、及び検討の進め方について、具体的な議論が行われました。

### 今回の検討委員会の内容をお伝えします。

○両校の適正規模化について、学区調整、統合を含めて議論を重ねた結果、将来的には統合が必要、またはやむを得ないとの前提で、今後の議論を進めることになりました。

○検討委員会での十分な検討を受け、今後は学校ごとに小委員会を設けて、統合時期などの具体的な点を検討し、その結果を集約したうえで、検討委員会で議論することになりました。

○今年度中に、検討委員会として適正化の基本的な方向性を決定し、教育委員会等に示すことになりました。



## 2 前回検討委員会の意見・質問への回答【事務局説明】

◇前回の検討委員会で出された意見・質問について、事務局から説明を行いました。

### (1) 今後の人口増加の可能性について

前回の会議で、今後児童が増える可能性の一つとして挙げられた深谷通信所について、現状をご説明しました。深谷通信所は、現在の方針では「公園・緑地」「交通基盤」「防災拠点機能」などの整備を進めていくこととなっており、今のところ、住宅開発は想定されていません。

### (2) 通学安全対策について

統合時の通学安全対策について、これまでの事例をご紹介しました。検討委員会からの要望を踏まえ、歩行者用信号の時間延長、ガードパイプの設置、路面舗装などが実施されています。

【事例】  
路面舗装



### (3) 人口増加と地域活性化に向けた取組について

人口増加策、地域活性化策等について、横浜市の都市計画等の観点からご説明しました。現在の横浜市の方針では、東俣野から深谷、泉区にかけての地域は、緑の 10 大拠点として、市街化よりも緑や水辺、農地を活かしたまちづくりを目指す地域とされています。そのため、大規模な住宅開発と人口増加は見込みにくいと考えています。また、全市的にも人口減少社会が前提とされており、人口増加に向けては子育て支援など間接的効果が期待される施策に留まっています。

### (4) 通学区域調整による適正規模化について

通学区域調整による適正規模化の可能性について、仮の区域設定により検討しました。通学区域調整は隣接校との間で検討しますので、大正小学校、東俣野小学校、深谷小学校の 3 校が検討対象として挙げられます。ただし、深谷小学校は平成 30 年度に小規模校になる可能性があるため、深谷小学校区から深谷台小学校区（及び俣野小学校区）への調整は検討対象から除外します。

○各校の今後の推計

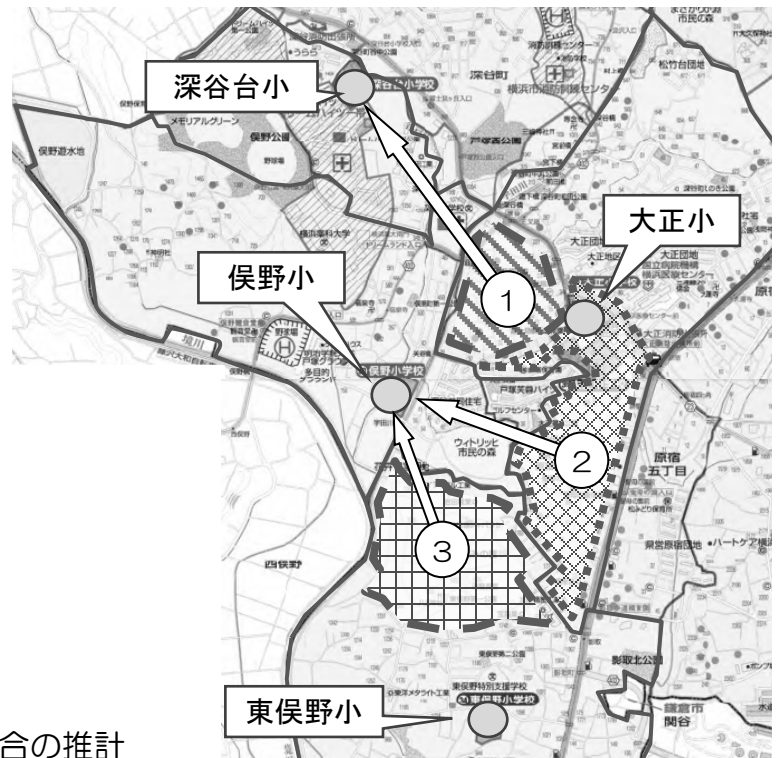
(平成 24 年度義務教育人口推計より)

	H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		普通 教室数
	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	
大正小	522[10]	18[3]	520	17	541	18	543	17	521	17	512	18	488	16	26
東俣野小	357[ 9]	12[2]	353	12	350	12	342	12	341	12	328	12	319	12	12
深谷小	295[ 6]	13[2]	284	12	292	12	303	12	289	12	288	12	276	11	16
深谷台小	301[ 3]	12[2]	301	12	303	12	298	12	275	12	247	11	219	9	24
俣野小	138[ 5]	6[2]	138	6	122	6	110	6	109	6	108	6	102	6	18

※H24は5月1日現在の実数値。

[ ]内は個別支援学級の児童数・学級数。

※H25以降は推計値。ただし深谷台小・俣野小は、H25新1年生の人数を平成24年12月現在の予定者数にして再計算。



**通学区域調整の例(仮)**

○対象地域と調整内容

- ① 大正小学校区のうち  
深谷町の環状4号南側  
⇒**深谷台小学校に通学区域調整**
- ② 大正小学校区のうち  
原宿4丁目
- ③ 東俣野小学校区のうち  
東俣野町北部(1500番地以降)  
⇒**俣野小学校に通学区域調整**

○対象者

平成26年度以降の新1年生及び転入生  
※既に通学している2年生以上は転校しない

○仮に上記内容で通学区域調整を実施した場合の推計

	H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		普通 教室数
	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	
大正小	522[10]	18[3]	520	17	499	17	472	15	424	14	385	14	347	13	26
東俣野小	357[ 9]	12[2]	353	12	342	12	329	12	328	12	311	12	296	12	12
深谷台小	301[ 3]	12[2]	301	12	319	12	330	12	320	12	308	12	286	11	24
俣野小	138[ 5]	6[2]	138	6	156	7	163	7	177	7	197	8	209	8	18

→通学区域調整後

通学区域調整を行ったと仮定した場合の推計は上のようになります。深谷台小学校と俣野小学校の児童数は一定程度増えますが、両校を同時に適正規模校にするまでには至っていません。また、これ以上の大規模な調整は、大正小学校と東俣野小学校を小規模化させる恐れがあるので困難です。

**3 検討委員会での主な質問・発言 (★委員 →事務局)**

(冒頭、委員長からの求めにより、両校の今後の方向性について事務局側の見解を説明しました。)

→この地域の児童数は減る傾向にあり、今後も大幅に人口が増えることは考えにくいので、児童の学習環境を考えると、何らかの対応が必要だと考えています。通学区域調整にも取り組みたいと思いますが、調整後の新入生から順次変更になるので児童数が増えるまで時間がかかり、また適正規模になるような大規模な調整は困難です。そのため、これからの児童のことを考えると、学校統合は必要だと考えています。しかし、これまでに色々な意見をいただく中で、今すぐ統合、というのが難しいこともよく分かりました。そこで、例えば26年度などと急ぐのではなく、27～30年度の間、皆様の合意を得られる時期に統合する、ということではいかがでしょうか。

★例えば俣野小が全校で100人を切ったら統合も考えざるを得ないのでは。

★ほとんどの人が基本的に統合反対なのだから、近々での統合は行わないこととし、ドッチボールやサッカーができなくなるような、全校100人や1学年10人などにならないよう、様子を見ながら検討を続けてはどうか。また、両校に直接関係する委員に絞り込んで検討してはどうか。

- ★十分検討することは大切だが、いつまでも決まらないままというのも良くない。児童数が今の推計通りに減るとは限らないのだから、今後の推移をよく見ていき、学区調整も行いつつ、ある条件に達したら統合を含めて再検討、という形ではどうか。
  - ★思い入れのある学校の統合には、気持ちの上では反対。だが、それだけでいいのか、とも思う。両校の関係者だけの小委員会を設けて、互いの考えていることを確認しながら検討してはどうか。
  - ★本音としては俣野小を残してほしいが、このまま子どもが減っていくのはどうかとも思う。とにかく親としては先が見えないことが一番不安。年度内に方向性が決まっていれば保護者もそれぞれに考えられるだろう。また、検討委員会で出た案について保護者間で話し合う機会を作りたい。
  - ★両校以外の地域の委員は、かえって居づらい思いをしていないか。また、体育指導員や青少年指導員も委員に入っていない。両校の子どもと直接関わっている関係者だけで話し合っただけではどうか。
  - ★昔に比べれば確かに子どもは減った。しかし学校は子どもだけでなく地域にとっても大切なもの。その学校の統合をこの委員会で決めるのは難しいので、教育委員会に決めてほしい。
  - ★地域でも、「地域のことは地域で解決する」と言っている。学校が無くなるのが嫌ということではなく、子どもにとって何がいいかという視点で、両校の関係者でしっかり考えるべき。
  - ★学校を残すかどうかだけでなく、町や各町内会はどのような方向に進むのかという視点も含めて、ざっくばらんな話をしたい。教育委員会抜きの小委員会で議論し、その後教育委員会を交えて検討委員会をやってはどうか。
  - ★教育委員会の推計で、俣野小は30年度まで100人以上いるのだから、30年度以降に100人を切ったら検討するのではどうか。その前に問題が生じるようなら、その時に検討すればよい。
  - ★統合するとした場合にどちらの学校を使うか、という話を誰もしない。このままでは議論が深まらない。教育委員会では、統合する場合にどちらの校舎を使うつもりなのか。
- まだ統合すると決まったわけではないので、具体的な検討はしていません。
- ★9月の保護者説明会では、俣野小は大勢の保護者が集まった。それは、俣野小がなくなって深谷台小に行くことになるかもしれない、と心配しているからだ。しかし深谷台小側で、俣野小に行くかもしれない、と心配している人は少ないのでは。そのように、深谷台小と俣野小では、考え方にズレがあるように思う。
  - ★町内会の保護者からは「早く決めてほしい」「非常に落ち着かない」という声が寄せられている。
  - ★今は統合せず、100人を切ったら検討、とすれば安心だろう。世代が入れ替わって若い人が入る可能性だってある。問題が出たらまた検討すればいい。どちらの校舎を使うかも、話し出したら色々な意見が出るから決めるのは難しい。3、4年後に一方がなくなるのも中途半端だ。
  - ★学校教育の面では、例えば先ほど意見で出たドッチボールは10対10で20人、サッカーなら9対9で18人が必要。その他の活動を考えても、1クラス20人はいてほしい。その点、全校100人は学年平均16人となり、やや少ない。また、人数で決めると、それがいつになるのか見通しが立たない。学校も数年単位で計画や方針を立てながら学校経営をしている。26年度の統合は確かに性急かもしれないが、28年度なり30年度なり、年度を決めて進んでいきたい。
  - ★指定地区外就学の影響で児童が減っている面もある。しっかり学区を守るべき。学校という施設がなくなるのは地域にとってマイナス。卒業生にとっても、学校が無くなるのは寂しいことだ。
  - ★俣野小は以前から統合のうわさが出ていた。それが今、具体的な話が来て、今日3回目の議論となっている。これ以上結論を引き延ばすのはよくない。地域に持って帰れない。人数なり、年度なり、今後の方向性を決めないといけない。
  - ★子どもが減っても、すぐに統合できるわけではない。統合に向けて1～2年の準備期間が必要になる。そうすると、子どもが減ってから検討したのでは、統合までに更に人数が減る心配がある。
  - ★継続して児童数の推移を見ていき、減る可能性が高まった時点で検討すればいいのではないか。
  - ★先ほど指定地区外就学の話が出たが、なるべく本来の学区で、地域の中で育つのが良いと思う。しかし、各家庭の事情に応じて、どうしても受けざるを得ない場合もある。
- 今度の子どもが減る傾向を考えると、30年度まで先送りするのではなく、ここである程度の方向性を出すことが、子どもにとって大切なのでは、と考えます。また、保護者の方の不安も率直なお気持ちだと思います。そこで、将来的には2校を統合するという前提で、先ほど意見のあった、人数を絞った「小委員会」で具体的なことを検討していただく形ではいかがでしょうか。

- ★検討委員会で議論して意見書にまとめた内容は、その通り実現するのか。参考意見ではないのか。  
→最大限尊重しています。
- ★教育委員会がいたる検討委員会では、言いたいことが十分言えない。教育委員会抜きで、委員だけでもう一度検討し、委員長・副委員長で議論を整理して意見書をまとめようと思う。
- ★先ほど言ったように、関係する両校の委員だけで議論するのがいいと思う。
- ★関係校で集まって議論する、ということをおこの場で決めてはどうか。
- ★いつまでに何を決めるのか、を今日決めたい。このまま何も決まらないままでは帰れない。
- ★小規模化がより進んでいる俣野小学校側の意思を尊重すべき。
- ★4回目の検討委員会を開く前に、まず俣野小と深谷台小の関係者がそれぞれ集まって検討し、次に教育委員会抜きの小委員会で検討する、という流れでどうか。また、やはり時期は人数でなく年度で決める方がよいと思うが、それも小委員会で検討したい。
- ★年度内には検討委員会としての意見をまとめたい。
- ★1月に各学校の関係者がそれぞれに検討し、2月に関係者を集めて意見書を作成、3月に教育委員会を入れて検討委員会を開催、ではどうか。
- ★3月に意見書を出したら、教育委員会の回答はいつ来るのか。2月中に出さなくて大丈夫か。  
→意見書に対して教育委員会から回答するわけではなく、教育委員会で内容を検討した上で、市会で議決することになります。なお、意見書を出した時点で検討委員会は解散となります。
- ★保護者としては、意見書を出した後、最終結果がいつ分かるのかが心配。  
→検討委員会は統合するかどうかを決めて終わりではありません。統合する場合は、時期、校舎、校名等、色々と決めることがあります。それをまとめたものが意見書で、その内容は最大限尊重しています。私たちとしては、少なくともそうした具体的内容の前の、将来的には統合する、という方向性を年度内に決めていただくことが、子どもと保護者のために必要だと考えています。
- ★意見書を出したら検討委員会は終了と言ったが、方向性を出すのは意見書なしでもいいのか。  
→意見書は最終的な検討結果ですし、検討委員会で決定した内容は残りますから、方向性を出す段階で意見書にしなくても良いと思います。
- ★方向性とは、例えば30年度に統合、あるいは100人になったら統合、という形を指すのか。  
→今の段階で時期や条件を決めなくても、将来的には統合、というだけで方向性になると考えます。
- ★それでは、まずは1月に学校ごとに意見を整理し、2月に両校集まって整理することにする。その会議の取りまとめは学校ごとに副委員長にお願いしたい。

#### 4【第2回検討委員会以降に事務局に寄せられた意見】 ☆意見 →事務局の回答

◇地域や保護者の方から寄せられた意見と、それに対する事務局の回答をご紹介します。

- ★大正小学校、深谷小学校などの周辺校も含めて、包括的に検討するべきではないか。  
→検討委員会では、深谷台小学校と俣野小学校の適正規模化の方法について、まずは大正小学校や深谷小学校等の周辺校との通学区域調整により適正規模化が図れないかを検討します。
- ★仮に、統合した場合、統合校より近くの大正小学校や深谷小学校に通わせたいという保護者がいると思う。  
→仮に、深谷台小学校と俣野小学校が統合する場合には、地域の要望や周辺校の状況を考慮し、必要に応じて周辺校との通学区域調整を検討します。

「深谷台小学校・俣野小学校」通学区域と学校規模の適正化検討委員会の経過、横浜市の基本方針等はインターネットでも見ることができます。

- ・「深谷台小学校・俣野小学校」通学区域と学校規模の適正化検討委員会：  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakku/shoukibo/>
- ・基本方針等：<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/kyoiku-info/gakku-houshin.html>

「深谷台小学校・俣野小学校」通学区域と学校規模の適正化検討委員会では、皆様からのご意見を受け付けております。FAXかEメールで、事務局（学校計画課）までご連絡ください。

「深谷台小学校・俣野小学校」通学区域と学校規模の適正化検討委員会事務局（学校計画課）  
電話 045-671-3253 FAX 045-651-1417 Eメール [ky-totsuka@city.yokohama.jp](mailto:ky-totsuka@city.yokohama.jp)